

記時歲譜俳

夏

俳諧歲時記

夏

一吉哉	新郎	太	高野	牧	國武山寺	木奇
信祐	信倍		本尾		斗日	村藤
作						

改進社

昭和廿二年六月十五日印

刷行

昭和廿二年六月二十日發

行

昭和廿五年一月五日第二刷發行

定價 金四百九十九圓

俳諧歲時記（夏の部）

編者 平田貢一郎

發行者 平田貢一郎

東京都大田區田園調布二丁目一三一四番地

印刷者 淺野剛

東京都中央區京橋一丁目三番地

東京都中央區京橋一丁目三番地

發兌改造社

振替口座東京八四〇二番

(56) 五六二〇番

例 言

一、本書は「俳諧成時記」夏之部とす。

一、夏之部に採用せる季題選定の範囲は、立夏より立秋の前日迄を基準とし、之に陽曆、五月・六月・七月、及び陰曆、四月・五月・六月を割り當て、年により立夏・立秋を前後する季題の採擇は慣例に隨へり。尙、行事或は祭日の日取は、主として陽曆を採用せるも、古書引用中の日附及び解説中に於ても過去にのみ存在せしもの、又現代に於て主として陰曆にて行はれ居るもの等は、便宜陰曆に依れり。故に「盆」及び「七夕」關係の季題等は秋の部に編入せり。

一、本書に收載せる季題は總數一千三百餘、新季題及び過去にのみ存せる季題をも漏らさず網羅せり。

一、季題の分類は、先づ、時候・天文・地理・人事・宗教・動物・植物の七部門に大別し、各部門の順序は、實際句作上の便宜を考慮して、慣例による分類法を主とし、之に科學的見解をも參照して案配せり。

一、傍題中にて、或は独立せる季題として他部門に分類なし得べきものにして、特に獨立する必要を認めず、又主題と同一箇所に説くを便利とするものは、傍題として存せり。例、青田風、地理—青田の傍題中に、天文の部門に入るべき青田風を入れたる如し。

一、本書に收載せし例句は、句作上之便宜を考慮し、名句集を兼ねしむる爲、古今著名俳家の句集を招致し、量に於ても質に於ても從來の例を遙に凌げり。而して排列は各傍題毎に區別し、略々年代順によれり。
一、解説の明瞭を期するため、詩はしきもの、畫、繪等の插畫を便利とする季題等總て八十餘題には、それ／＼畫圖を挿入す。尙その選定には、寺尾・牧野兩博士を初め諸家の好意を得たり。

一、本書の執筆分擔は左の如し。

季 题 解 説 實 例 句 註 著 事 文 教 宗 神 動 植 物

時候・天

人 事 文 教 宗 神 動 植 物

昭和八年六月

青木月斗

藤村作

富田信祐

寺尾

牧野富太郎

吉哉新郎

武山寺牧野

俳句の中に没つてゐる我々、季題の中に没つてゐる我々が、さて季題の一つ／＼に解説を附するとなると、面倒な事、疑義を生じて来る事など、今更に驚かされる。作者と學者、感情表現と智識表現との相違を思はされた。智的に解けば趣味素然となる、味的に傾けば本質的説明の薄らぐ恐れがある。我れ怪しいものは、古人も怪しい。いくら議論をしても追つかぬ。大槻氏が銀杏のいてふを「いちやう」、泥鰌のどじやう、どぜうを「どぢよう」の假名を正定する迄に三十年を費したこと等、つく／＼思はされた。季題の新舊混淆のものも、關東と關西の相違のものも、成べく自然的に兩様を探つた。季題の遺漏なきを期して、新古のもの、疑あるものも、多く挙げる事にした。例句の如きも、編者が兼め選をしたが、書肆の要望でそれ以外の範圍に亘つた。又例句のないものは同人で補うた。春と夏、夏と秋の區別も考案を要するものがあるが、重複を覺悟して掲出したものが多々。

この編纂に助力を致した人々に、岡本圭岳を初め、安保壽北・宗田千燈、廣田耕平・龜田小姑・谷村凡水・中西二月堂、其他同人の多くが、いづれも、獻身的に努力精勤してくれた事を深く謝す。

個人發行所にて

月 斗 識

一、改造社の請により、同社編輯俳諧歲時記の「古書跋註」の原稿作成を擔當した。但し編輯は同社の方針に據る。文學士藤崎一史君を煩した。
 一、引用書は、俳諧歲時記關係では、俳諧御幸(貞徳)・山の井(季吟)・増山の井(季吟)・滑稽雜談(其談)・華實年浪草(馬琴)・俳諧歲時記(馬琴)・俳諧歲時記采草(青藍增補)、其以外では、日本歲時記(益軒)・雍州府志(道祐)・日次紀事(道祐)・和漢三歳圖會(良安)を用ひた。使用書は、滑稽雜談は東京帝國大學附屬圖書館所藏舊酒竹文庫の未紹介寫本、日本歲時記は貝原益軒全集所收本、雍州府志は續々群書類從所收本、日次紀事は珍書同好會複製本によつた。俳諧御幸は御幸、華實年浪草は年浪草、俳諧歲時記采草は采草、和漢三才圖會は三才圖會の略號で示した。(引用の本文やその三才圖會)
 一、所引の文中の漢文は假名交り文に書き改め、送り假名は適宜加へ、一般の便を計つた。

一、季題は多く古俳諧歲時記に見ゆるものを中心とし、紙被の許す限り、適宜他書によりて附加した。同じ理由によつて「註」の部も簡單ならざるを得なかつた。

部類目次

植物	動物	宗教	人事	地理	天文	時像
五〇	三〇	二九七	一	七	一	一

土三梅梅入田麥半仲夏夏清初七大小林水六夏芒葵臯五小立仲卯夏

雨雨 植の夏 深め

無

時

用伏明寒梅時秋生夏しく和夏月暑暑鑑月月至種賓月月滿夏呂月

候

目

六五五五四三四三三二二〇〇八八七七七六五五四四二一

次

雲五夏夏夏夏梅梅夏 夜條短夏夏夏夏涼極暑薄六夏秋秋夏晚

の月のの日 雨の 天 の ののののき 月のを近深
待

峯雲雲星月影天空空 文 秋春夜夜宵夕朝曉日し暑日さ暑盡果つしし夏

三四四四六六毛毛毛

武量三三三三三毛毛毛武量三三元元元八八八

梅雷電虹夏夏夏富澤喜夕分虎藥送五梅卯夏夕朝涼溫風青御山黃な土土春荀茅黑南夏

雨ののの枝 蘭ヶ降梅月花の 薙祭漸省が東あ秋
雷 初 亂霧霜露雪雨立雨雨る雨雨雨し雨風風風風る嵐風風風し風い風雨し風風風

二

〇穴穴空穴尖空空空空空空空

人
事
川掛川明下
四條河原の納涼
時の記念日
川開明下
林暑避暑施蟲嘉
夏季講習會中休
水防出初式見
衣重衣着 布布布布納衣衣衣衣ふ衣祭

風古夏新甘麥燒冷梅初酒新水衣夏白下夏腹汗單汗夏夏繡夏甚夏汗夏夏セ俗羅帷
爐切地賣酒の火紋足拭手手帽頭合羽洋單
茶茶茶茶酒酒酒吞祝入玉竹袋靴帶當ひ持貢袋襟子笠巾羽平織衿珍服衣衣子

茹蜜白葛萬ゼ心柏棕梅煮冷冷葛飴水ソアラシミ炭冰平蒲薄砂肉密萬薄振冷冷蓮麥夏
小餠リ しミのイスダトロセミルク酸 野菊標糖桂柑 荷舞珈紅 手
豆豆玉頭餅太餅 千梅瓜瓜ク湯粉水クリーヌネンキ水水水水水水水水水水水水珠茶茶前

生新和沖銷土洗洗筍新茄茄乾風風炸飯麥蓮筍豆水乾夏飯あ冷冷冷土青沫金水麥乾
 用子
 雜 丑ひひ 茄の子 拨 鮭 料 つめ 素用ざ雪玉羊落
 日 嘴 節節鮑鮋鍋の鮑鮋鮑鮋干和鮑漬瓜漬み る飯飯飯飯飯理汁汁汁奴麥麺餅し羹糖羹脣
 級

空空空

夏夏吊著花蒲藤草裏麻模蓑青青井噴溫泉夏夏膳冷鹽水蟹皮干目身船刺水鱈干水煮
 布座布 莫莫 暖障葉戶座露凍島 打數 河摺缺生 の
 圈圓床蓆蓆筵筵 篭簾子戶簾簾普水殿殿敷館つ魚賊貝胥子鱗豚胎鱗洲鱗鱈皮鱗鱈取

空空

蚊紙蚊端納行打ド冷冷冰花飯水夏蚊走吊風金錫ギ扇圓扇夏日日露竹蓆竹陶水篠圓油數
 造 ライ 藏 の早馬 魚のヤ風 洋 牀椅夫
 火帳帳居涼水水イ房庫室冰笊盤燈燈忍鈴玉鉢ン機扇 傘傘除臺儿子人枕枕枕座圓紙
 古

空空

未央中央朱樂柳子柑橘楊梅桑樹桃李桃梨楓櫟桂柏梅竹柏桐油桐夾葉厚泰
九年夏蜜佛子朱子柑橘子類菊蘭解檣蘭樹楓樹栗樹椎頭檣樹櫟樹梔樹
柳花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花

五七七五八五九五九六五九五九五九五九五九五九五九五九五九五九五九

野薑凌霄蔓草嚴女天雁金鵝紫忍南金深橋青桺桺森箱卯山山樣水皂山樓菩
香蘭梅茶的貞女皮絲繡陽冬天雀木根空木天蓼英的木木木木木木提樹
芙薇花藤花梅花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花花

五五九五五八五五七五五六五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五

波松麥除錦矢蝶夏鳶鬼謬朝器夏姬二天紅黃葵向草天芍牡蚊夏白金夜磨
斯葉稈蟲蘿車夷尾器器栗水芭葉竺蜀蜀日牡社子丁栗柄鵝綠之塞桑
菊菊菊菊菊菊菊草粟粟菊花仙蕪葵葵葵葵丹丹藥丹木蒜花蘭杓花花花花花花

五八七五七七五九九五九九五九九五九九五九九五九九五九九五九九五九九五九九五九九

